

令和7年度島根県原子力防災訓練

評価結果サマリー

MRI エム・アール・アイリサーチアソシエイツ

2026年3月

社会解析ソリューション部

MRI

目次

1. 訓練評価の概要	2
1.1 評価の目的・方法	3
1.2 訓練項目別評価方法	4
2. 訓練全体の評価結果の概要	5
2.1 訓練参加職員による自己評価結果の概要	6
2.2 訓練参加住民による自己評価結果の概要	7
2.3 評価員による外部評価結果の概要	8
3. 訓練項目別の評価結果の概要	9
3.1 10月27日(月)実施訓練	10
3.2 11月1日(土)実施訓練	12
3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練	15
3.4 11月20日(木)、26日(水)実施訓練	30
3.5 12月17日(水)実施訓練	33
3.6 12月24日(水)実施訓練	35

1. 訓練評価の概要

1.1 評価の目的・方法

1.2 訓練項目別評価方法

1. 訓練評価の概要

1.1 評価の目的・方法

● 訓練評価の目的

…期待される主な成果の達成状況を把握し、継続的改善(PDCAサイクル)に繋げる

● 訓練評価の方法

…以下、①、②及び③を併用。訓練項目別の評価方法は次ページ参照

① 訓練参加職員による自己評価(アンケート)

② 訓練参加住民による自己評価(アンケート)

③ 評価員による外部評価

● 評価の際の主なポイント

ポイント
①

最新の計画類に基づく対応手順の確認等

ポイント
②

「重点項目①:避難行動要支援者の避難手順の確認」の達成状況確認等

ポイント
③

「重点項目②:緊急時モニタリングの多様な実施方法に係る手順の確認」の達成状況確認等

1. 訓練評価の概要

1.2 訓練項目別評価方法

【凡例】●:実施、—:未実施

No.	訓練項目	訓練実施日								評価方法		
		10 / 27 (月)	11 / 1 (土) ※	11 / 9 (日)	11 / 20 (木)	11 / 26 (水)	11 / 29 (土)	12 / 17 (水)	12 / 24 (水)	自己評価		外部評価 (評価員)
									訓練参加 職員 アンケート	訓練参加 住民 アンケート		
1	緊急時モニタリング訓練	●	—	—	—	—	—	—	—	●	—	●
2	在宅避難行動要支援者の避難誘導訓練	—	●	—	—	—	—	—	—	●	●	●
3	広報訓練	—	—	●	—	—	●	—	—	—	●	—
4	UPZ住民の避難措置等訓練 (一時集結所開設・運営、安定ヨウ素剤の緊急配布、バス等避難)	—	—	●	—	—	●	—	—	●	●	●
5	UPZ住民の避難措置等訓練 (避難退域時検査場所開設・運営)	—	—	●	—	—	●	—	—	●	●	●
6	UPZ住民の避難措置等訓練 (避難経由所開設・運営、避難所開設・運営)	—	—	●	—	—	●	—	—	●	●	●
7	PAZ社会福祉施設の避難措置等訓練	—	—	—	●	—	—	—	—	●	—	●
8	UPZ社会福祉施設の避難措置等訓練	—	—	—	—	●	—	—	—	●	—	●
9	病院の避難措置等訓練	—	—	—	—	—	—	●	—	●	—	●
10	初動対応訓練	—	—	—	—	—	—	—	●	●	—	●

2. 訓練全体の評価結果の概要

2.1 訓練参加職員による自己評価結果の概要

2.2 訓練参加住民による自己評価結果の概要

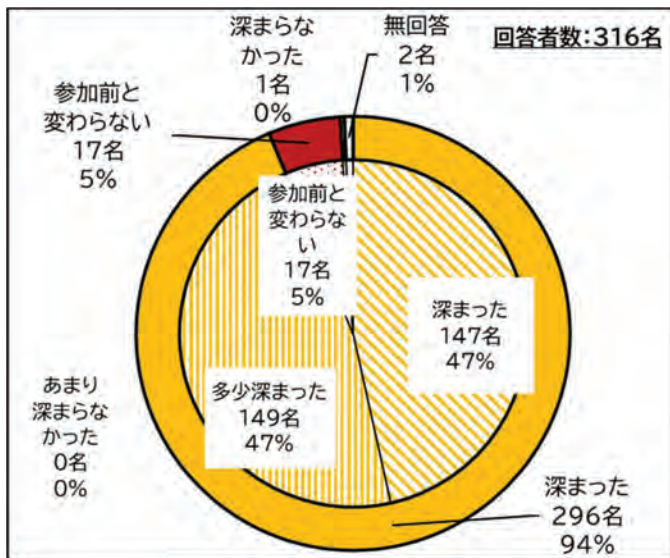
2.3 評価員による外部評価結果の概要

※ 自己評価結果(訓練参加住民)は、重複回答等があるため、実際の参加者数と一致しないものがあります

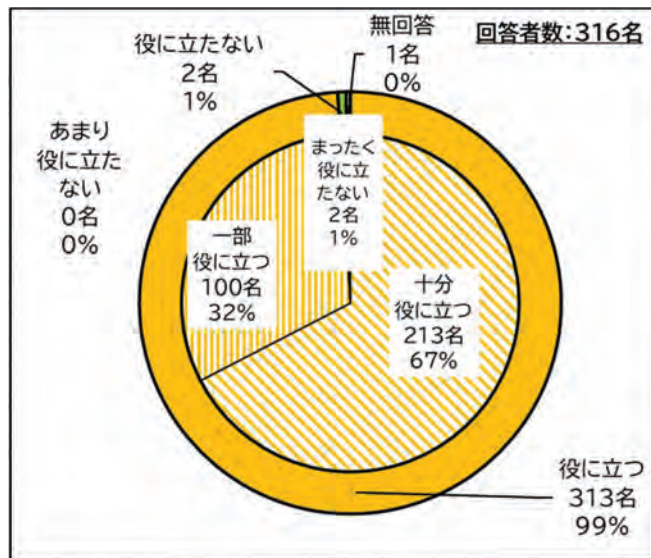
2.1 訓練参加職員による自己評価結果の概要

原子力防災に関する理解促進度、訓練の役立ち度

- 訓練を通じて原子力防災に関する理解が「深まった」「深まった」及び「多少深まった」の合計)と回答された方は、**9割を超えた**(左図。昨年度比: +1ポイント)。
- 今年度訓練の内容は今後に「役に立つ」「十分役に立つ」及び「一部役に立つ」の合計)と回答された方は、**9割を超えた**(右図。昨年度比: ±0ポイント)。



訓練を通じた原子力防災に関する理解促進度

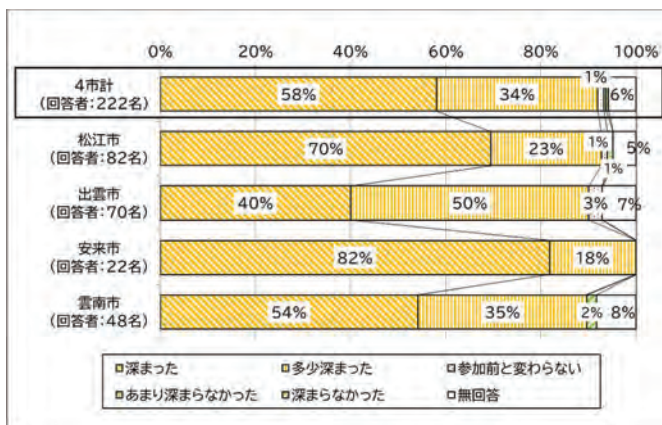


今年度訓練の役立ち度

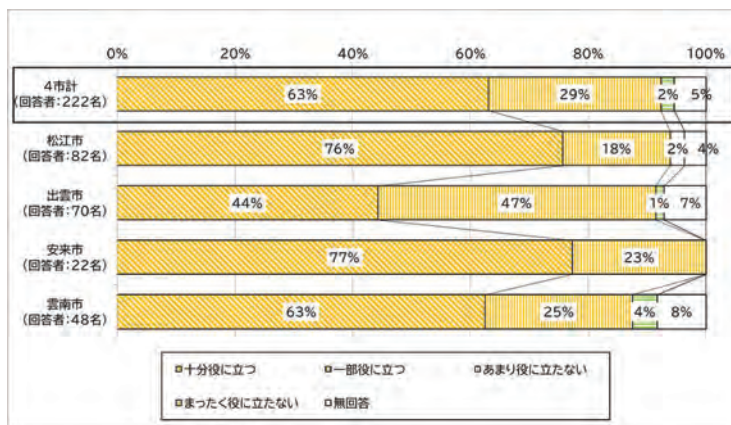
2.2 訓練参加住民による自己評価結果の概要

原子力災害が発生した場合にとるべき行動に関する理解促進度、訓練の役立ち度

- 今回の訓練を通じて、原子力災害が発生した場合にとるべき行動について理解が「深まった」「深まった」及び「多少深まった」の合計)と回答された方は、**9割を超えた**(左図。昨年度比: +4ポイント)。
- 今年度訓練の内容は今後に「役に立つ」「十分役に立つ」及び「一部役に立つ」の合計)と回答された方は、**9割を超えた**(右図。昨年度比: +2ポイント)。



原子力災害が発生した場合にとるべき行動に関する理解促進度



今年度訓練の役立ち度

訓練方法及び訓練対象の評価結果の概要

● 訓練方法の評価結果概要

…今年度訓練は、初動対応訓練と避難措置等訓練をそれぞれ別日に実施した。

初動対応訓練においては、主に以下に示す取組み等が行われた。

- 午前：島根原発2号機でプラントに起因する警戒事態(AL)発生後から施設敷地緊急事態(SE)までの初動対応手順を確認
 - 午後：島根原発2号機で全面緊急事態(GE)該当事象発生後(放射性物質放出前)の活動手順を確認 等
- 避難措置等訓練では、主に以下に示す取組み等が行われた。
- 在宅避難行動要支援者の支援内容確認及び避難誘導までの一連の手順を確認(PAZ内)
 - 社会福祉施設や病院における屋内退避(放射線防護対策施設の稼働)及び避難誘導(一時移転)の手順を確認
 - 住民の自家用車・バスによる一時移転手順を確認(UPZ)
 - 上記の実施に係り、訓練広報の実施(UPZ) 等

● 訓練対象の評価結果概要

…「3. 訓練項目別の評価結果の概要」を参照

3. 訓練項目別の評価結果の概要

3.1 10月27日(月)実施訓練

3.2 11月1日(土)実施訓練

3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練

3.4 11月20日(木)、26日(土)実施訓練

3.5 12月17日(水)実施訓練

3.6 12月24日(水)実施訓練

※1 自己評価結果(訓練参加住民)は、重複回答等があるため、実際の参加者数と一致しないものがあります

3.1 10月27日(月)実施訓練

(1) 緊急時モニタリング訓練

3.1 10月27日(月)実施訓練

MRI

(1) 緊急時モニタリング訓練

外部評価
(評価員)

【訓練の特徴】

- 「島根県緊急時モニタリング計画」(平成31年1月)及び「島根県緊急時モニタリング実施要領」(令和4年3月)に基づき、情報収集事態から施設敷地緊急事態に至るまでの活動手順の確認、習熟等を図ることを主な狙いとした。

【主な成果】

- 地震発生直後の対応として、平常時モニタリングの強化や、県モニタリング本部における参集要員の受付並びに車両及び機材の養生作業を適切に実施し、また、可搬型モニタリングポストの代替設置について、指示から現地作業、帰還までの手順を確認できた。
- 放射性物質放出後の対応として、要員の出勤・帰還の管理、現場へ出勤しての走行サーベイ及び環境試料の採取・回収並びに環境試料の前処理及び分析の実動を通じて、作業手順等を確認できた。

【良好事例】

- [昨年度訓練課題の改善]地震による機器への被害把握において、今年は2手に分かれ確認することで、効率的に確認がされていた。また、被害状況確認表がリスト化されており、効率よくチェックできていた。

【主な課題】

- 線量率および葉菜の採取ポイントについて、どこの試料を採取するのか、迷う場面が見られた。
⇒《平時の準備》有事の際は活動時間が長引けば、余計な被ばくにつながることもあるため、活動時間短縮のため、採取ポイントや推奨採集試料を明記された地図を確認して迅速に採取ができるよう、要員研修の充実化を図るべきと考える。

3.2 11月1日(土)実施訓練

(1)在宅避難行動要支援者の避難誘導訓練

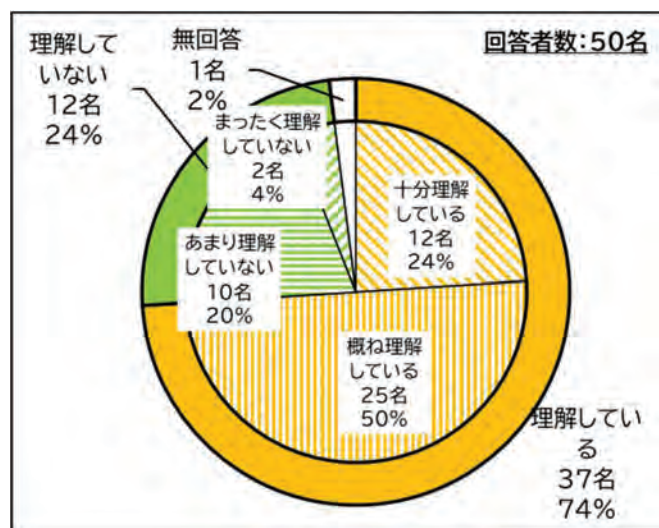
3.2 11月1日(土)実施訓練

(1)在宅避難行動要支援者の避難誘導訓練

自己評価
(参加職員)

自己評価
(参加住民)

- 訓練に参加される前の状況として、原子力災害における支所(地区)の役割について、避難行動要支援者の避難誘導などの役割があること「理解している」「十分理解している」及び「概ね理解している」の合計)と回答された方は、**7割を超えた**(下図)。

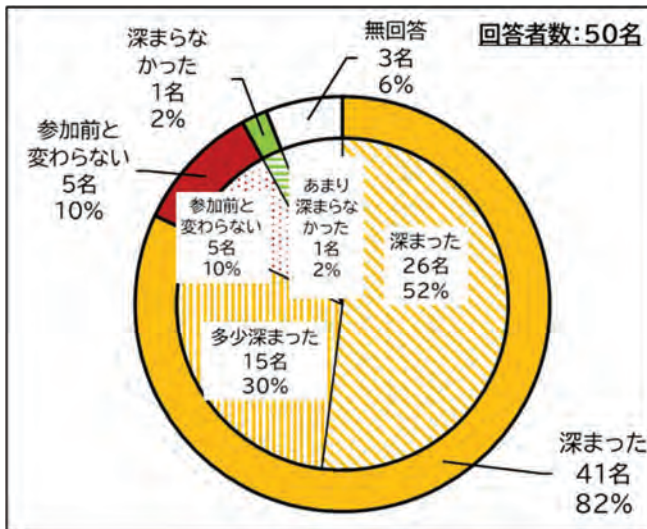


避難行動要支援者の避難誘導などの役割に関する訓練参加前の理解度

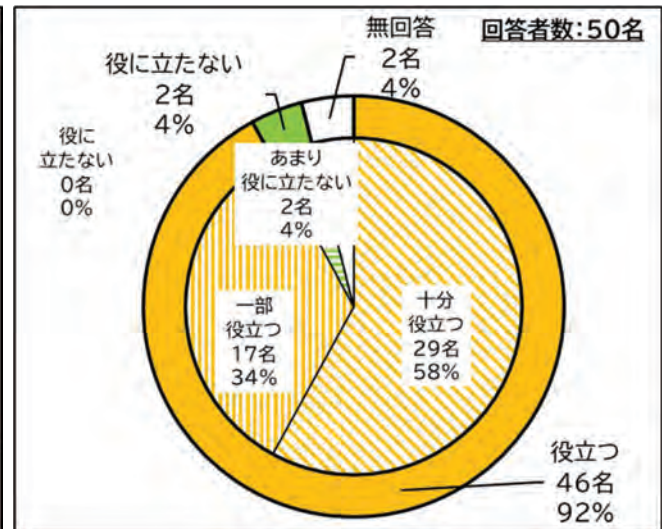
(1)在宅避難行動要支援者の避難誘導訓練

自己評価
(参加職員)自己評価
(参加住民)

- 今回の訓練に参加し、原子力災害が発生した場合の取るべき行動について理解が「深まった」(「深まった」及び「多少深まった」の合計)と回答された方は、**8割を超えた**(左図)。
- 今回の訓練に参加し、今後「役に立つ」(「十分役に立つ」及び「一部役に立つ」の合計)内容であったと回答された方は、**9割を超えた**(右図)。



訓練を通じた原子力防災に関する理解促進度



今年度訓練の役に立ち度

3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練

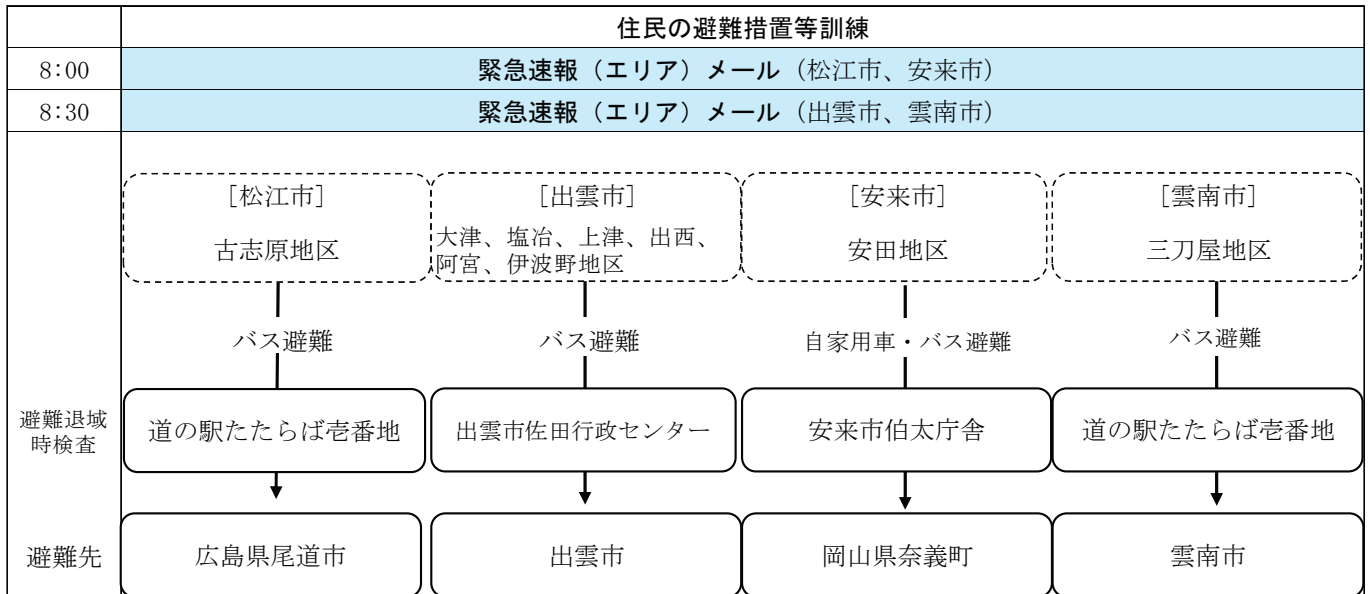
- (1) 広報訓練
- (2) UPZ住民の避難措置等訓練(一時集結所開設・運営、安定ヨウ素剤の緊急配布、バス等避難)
- (3) UPZ住民の避難措置等訓練(避難退域時検査場所開設・運営)
- (4) UPZ住民の避難措置等訓練(避難経路所開設・運営、避難所開設・運営)

3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練

概要

11月9日(日)、29日(土)

※松江市のみ11月29日(土)に実施



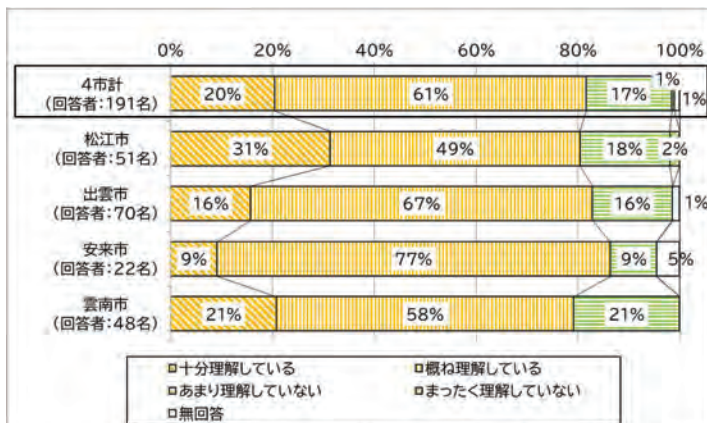
出所)令和7年度島根県原子力防災訓練の報道発表資料

3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練

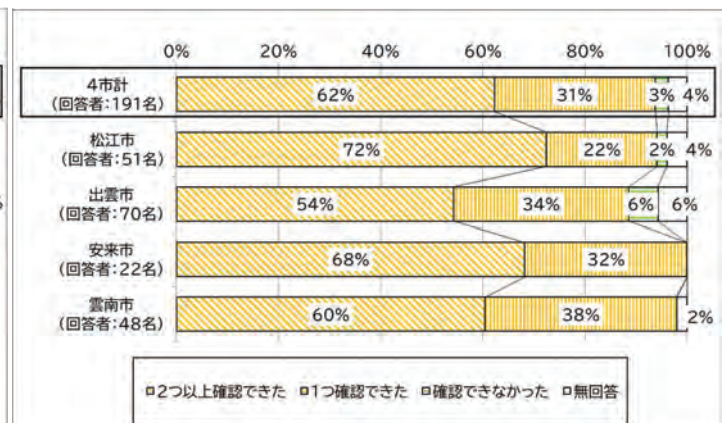
(1) 広報訓練

自己評価
(参加住民)

- 訓練に参加される前の状況として原子力災害の状況や市からの指示(屋内退避、避難等)などに関する情報の入手手段を「理解している」「十分理解している」及び「概ね理解している」の合計と回答された方は、**8割を超えた**(左図)。
- 訓練広報を「確認できた」と回答された方は、**9割を超えた**(右図)。
- 内訳を見ると、「確認できた」との回答が最も多かったのは「緊急速報(エリア)メール」(56%)で、次いで、「県や市の防災メール」(19%)、「ケーブルテレビ」(16%)と続く。



原子力災害の状況や市からの指示(屋内退避、避難等)などに関する情報の入手手段に関する訓練参加前の理解度



県や市からの訓練広報の確認状況

3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練

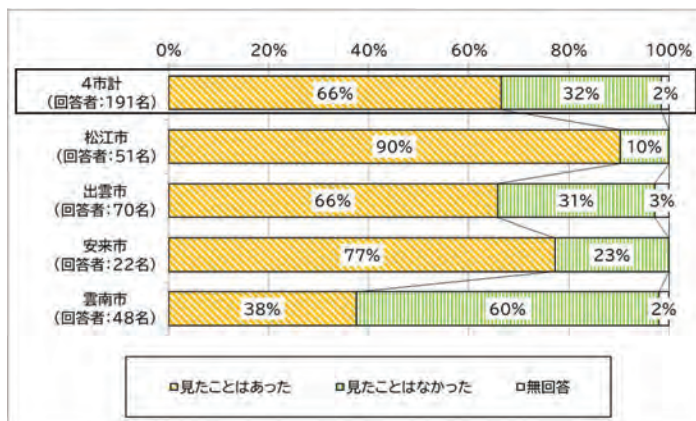
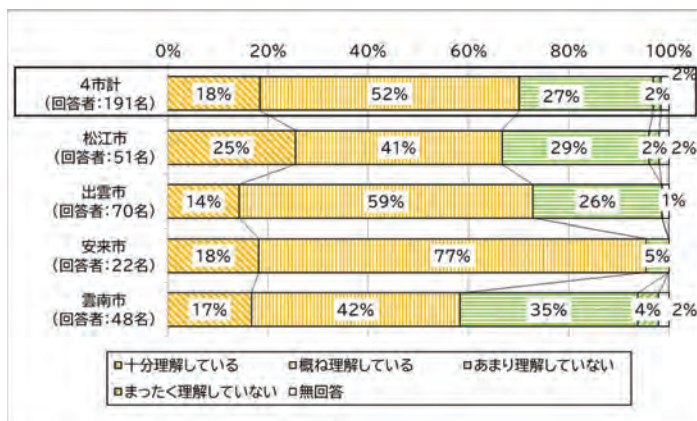
(2) UPZ住民の避難措置等訓練

(一時集結所開設・運営、安定ヨウ素剤の緊急配布、バス等避難)(1/5)

自己評価
(参加住民)

訓練に参加される前の状況として、

- 「原子力災害時にとるべき行動」を「理解している」「十分理解している」及び「概ね理解している」の合計)と回答された方は、**7割**であった(左図)。
- 地区別の避難計画パンフレットを「見たことはあった」と回答された方は、**7割弱**であった(右図)。

原子力災害時にとるべき行動^{*}に関する訓練参加前の理解度

地区別の避難計画パンフレットに関する訓練参加前の認知度

^{*}放射性物質放出前は屋内退避し、放射性物質放出後も指示があるまで屋内退避を継続する(指示があった場合のみ、避難等を実施する)

3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練

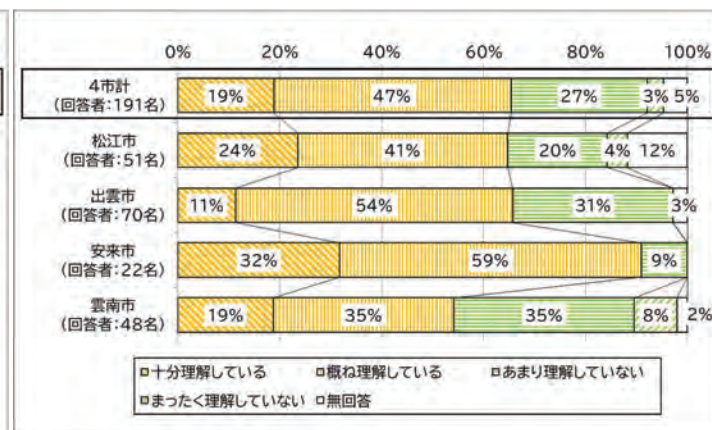
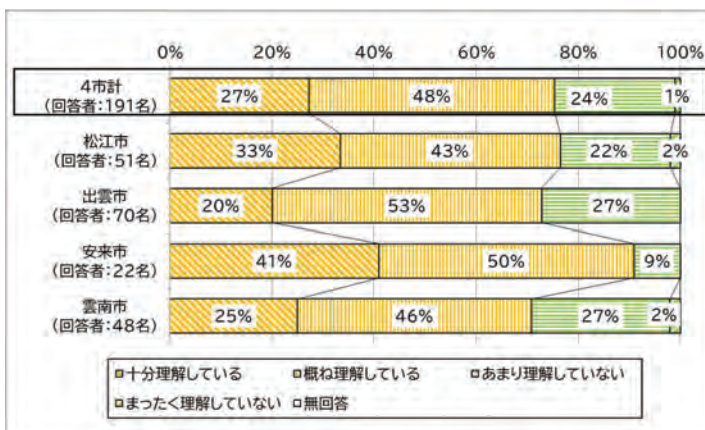
(2) UPZ住民の避難措置等訓練

(一時集結所開設・運営、安定ヨウ素剤の緊急配布、バス等避難)(2/5)

自己評価
(参加住民)

訓練に参加される前の状況として、

- 「原子力災害時の『避難』」を「理解している」「十分理解している」及び「概ね理解している」の合計)と回答された方は、**7割を超えた**(左図)。
- 「放射性物質が放出された後に避難を実施する際の留意点」を「理解している」「十分理解している」及び「概ね理解している」の合計)と回答された方は、**6割を超えた**(右図)。



原子力災害時の「避難」に関する訓練参加前の理解度

放射性物質が放出された後に避難を実施する際の留意点に関する訓練参加前の理解度

3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練

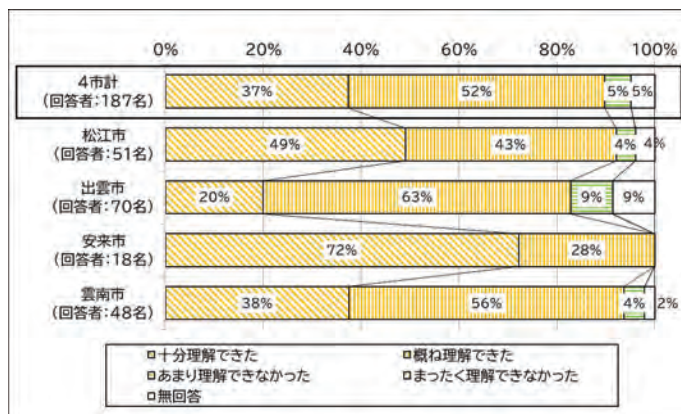
(2) UPZ住民の避難措置等訓練

(一時集結所開設・運営、安定ヨウ素剤の緊急配布、バス等避難)(3/5)

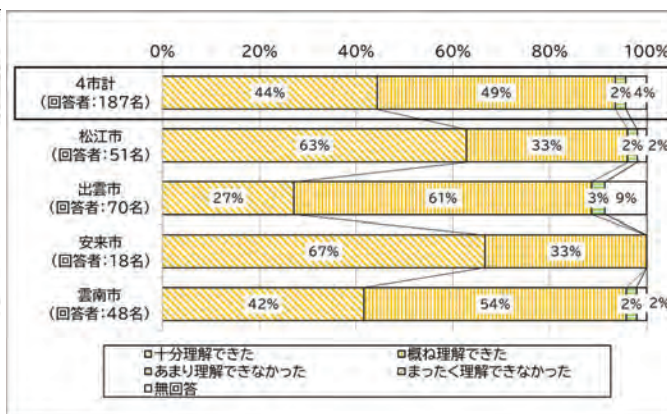
自己評価
(参加住民)

今回の訓練に参加し、

- 安定ヨウ素剤は服用するタイミングが重要であることを「理解できた」「十分理解できた」及び「概ね理解できた」の合計)と回答された方は、**9割弱であった**(左図)。
- 安定ヨウ素剤は服用指示があった場合のみ服用することを「理解できた」「十分理解できた」及び「概ね理解できた」の合計)と回答された方は**9割を超えた**(右図)。



安定ヨウ素剤の服用時期に関する理解度



安定ヨウ素剤の服用条件に関する理解度※

3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練

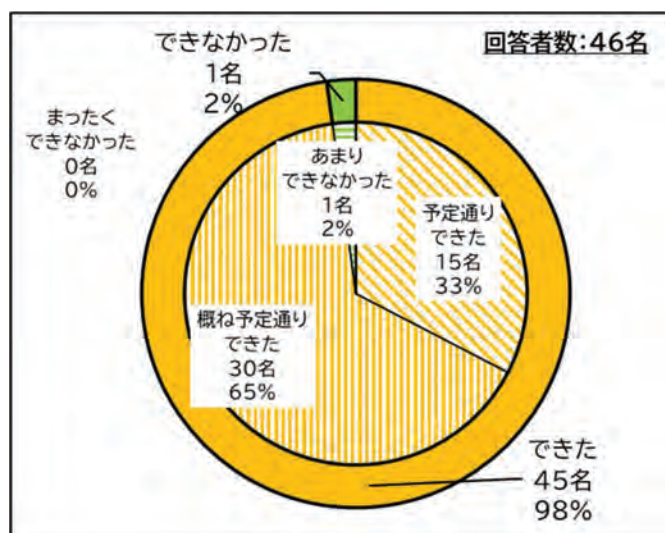
(2) UPZ住民の避難措置等訓練

(一時集結所開設・運営、安定ヨウ素剤の緊急配布、バス等避難)(4/5)

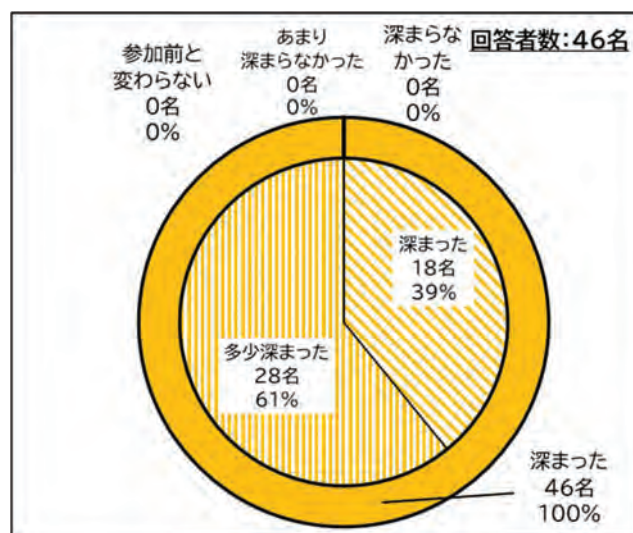
自己評価
(参加職員)

訓練で実施した内容について、

- 「予定通りできた」「予定通りできた」及び「概ね予定通りできた」の合計)と回答された方は、**9割を超えた**(左図)。
- **回答者全員**が習熟が「深まった」「深まった」及び「多少深まった」の合計)と回答された(右図)



訓練で実施した内容に関する自己評価



訓練で実施した内容に関する訓練後の習熟度

3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練

(2) UPZ住民の避難措置等訓練

(一時集結所開設・運営、安定ヨウ素剤の緊急配布、バス等避難)(5/5)

外部評価
(評価員)

【訓練の特徴】

- 広域避難計画で定める一時集結所を活用し、バス等による集団での一時移転時の対応手順を確認することを主な狙いとした。

【主な成果】

- 訓練の企画・実施を通じて、広域避難先市・町との連携強化を図ることができたほか、当該施設の特性等も把握できた。特に安来市では、現時点では避難所の候補になっていない施設において訓練を実施し、今後の計画類の充実につなげうる成果を得ることができた。
- 11/9の訓練当日(松江市以外)は悪天候により活動が制約される状況であったが、そのような環境下においても基本手順の確認を着実に実施することができた。

【良好事例】

- 一時集結所・避難退域時検査会場における避難住民への必要な情報の提供や行動について、職員から適切に説明がされていた。

【主な課題】

- 特になし

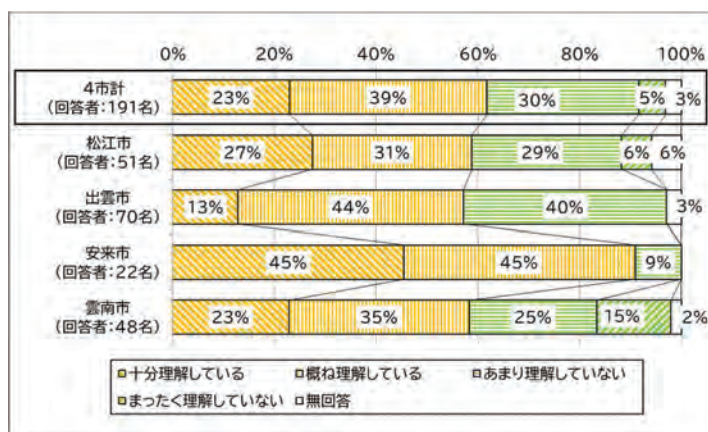
3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練

(3) UPZ住民の避難措置等訓練

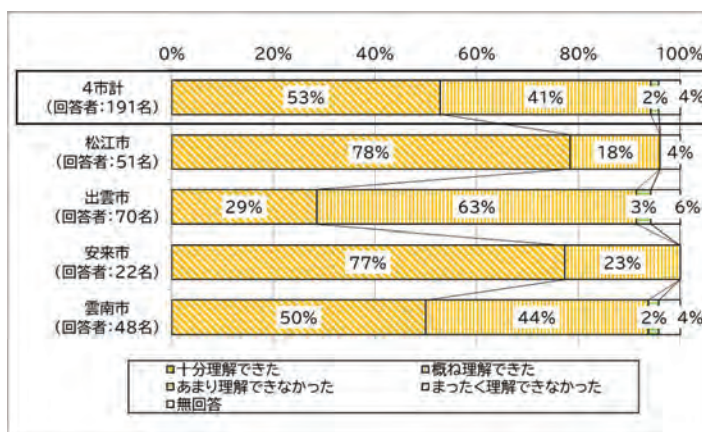
(避難退域時検査場所開設・運営)(1/4)

自己評価
(参加住民)

- 訓練に参加される前の状況として、「避難退域時検査」を「理解している」「十分理解している」及び「概ね理解している」の合計)と回答された方は、**6割を超えた**(左図)。
- 今回の訓練に参加し、放射性物質が放出された後に避難を実施する場合には、避難経路所に向かう途中で避難退域時検査を受ける必要があることを「理解できた」「十分理解できた」及び「概ね理解できた」の合計)と回答された方は、**9割を超えた**(右図)。



避難退域時検査に関する訓練参加前の理解度



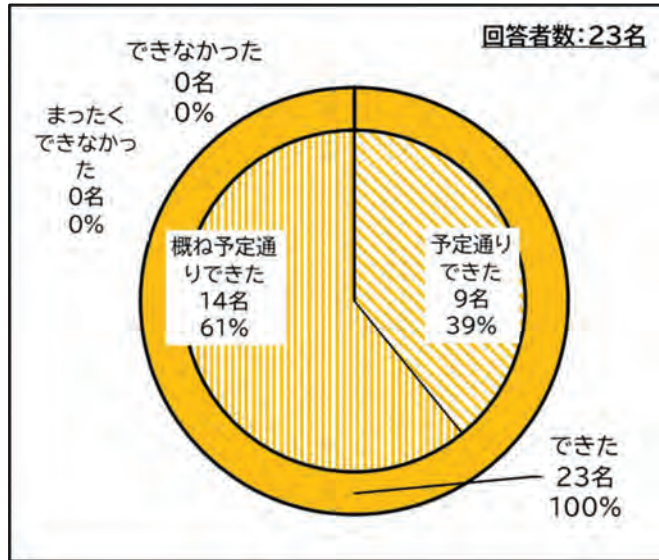
避難退域時検査に関する訓練参加後の理解度

3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練

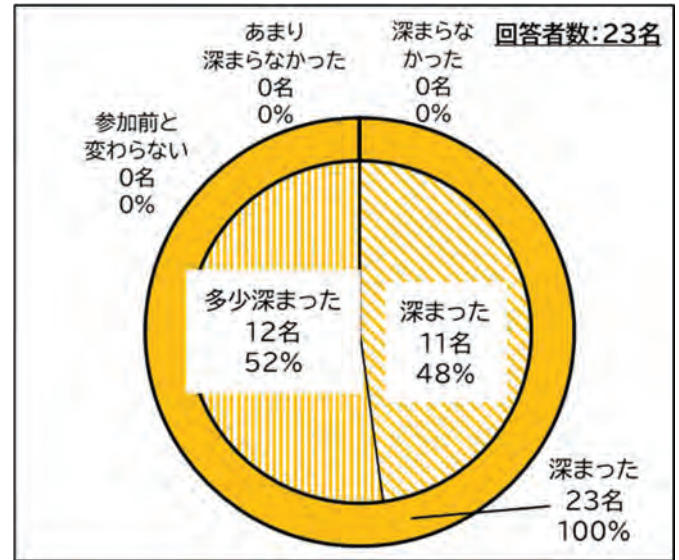
(3) UPZ住民の避難措置等訓練
(避難退域時検査場所開設・運営)(2/4)自己評価
(参加職員)

訓練で実施した内容について、

- **回答者全員**の方が「予定通りできた」「予定通りできた」及び「概ね予定通りできた」の合計」と回答された(左図)。
- **回答者全員**が習熟が「深まった」「深まった」及び「多少深まった」の合計」と回答された(右図)。



訓練で実施した内容に関する自己評価



訓練で実施した内容に関する訓練後の習熟度

Copyright © MRI Research Associates

24

3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練

(3) UPZ住民の避難措置等訓練
(避難退域時検査場所開設・運営)(3/4)外部評価
(評価員)

【訓練の特徴】

- ① 「原子力災害時における避難退域時検査及び簡易除染マニュアル」(内閣府(原子力防災担当)・原子力規制庁、令和4年9月28日)、「避難退域時検査等における資機材の展開及び運用の手引き」(内閣府(原子力防災担当)、令和5年9月19日更新)等に基づき、「島根県避難退域時検査等実施計画」(島根県、令和6年3月)で定める検査場所候補地のうち以下の3会場において、次の手順等の確認を主な狙いとした。
 - 道の駅たたらば壺番地：
 - 車両(バス)を対象とした指定箇所検査
 - 安来市伯太庁舎：
 - 車両(バス及び乗用車)を対象とした指定箇所検査
 - 出雲市佐田行政センター：
 - 車両(バス及び乗用車)を対象とした指定箇所検査、確認検査
 - 住民を対象とした指定箇所検査、確認検査及び拭き取りによる簡易除染
- ② 会場設営・撤去にあたっては、整備している資機材に加え、汎用品については訓練会場の貸出備品も活用した。

【主な成果】

- 訓練の企画・実施を通じて、検査場所候補地の特性や検査等で使用する資機材の特性等を把握できた。
- 出雲市佐田行政センターでは昨年度訓練に引き続き、訓練参加住民が乗車するバスに加え、模擬車両(乗用車)を活用し、現実的な想定で検査等の手順を確認できた。
- 訓練当日は、悪天候により活動が制約される状況であったが、そのような環境下においても基本手順の確認を着実に実施することができた。

Copyright © MRI Research Associates

25

3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練

(3) UPZ住民の避難措置等訓練
(避難退域時検査場所開設・運営)(4/4)外部評価
(評価員)

【良好事例】

- 車両動線が極力重ならないレイアウトで運用されており、車両及び避難誘導の円滑に実施されていた。

【主な課題】

- 雨が降る中で運転席の窓の開放時間が長く、雨が降りこんでいる場面が確認された。

⇒《マニュアルや計画類の見直し》

窓の開閉時に傘の使用や要員の住民へのお声かけ(「一旦窓をお閉めください」など)について、マニュアルに盛り込むことも検討すべきと考える。

- 雨のため、書類への書き込みや住民への授受において苦勞する場面が見られた。

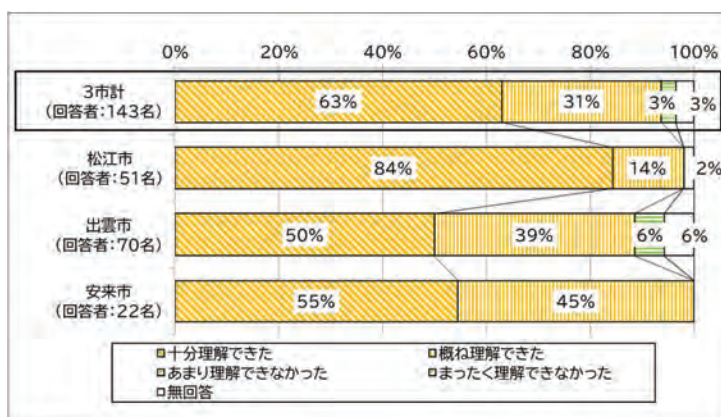
⇒《資機材の充実化》

雨の場合におけるレイアウトの検討(雨除けテントの設置)や耐水紙の使用等、悪天候を想定した資機材の充実化を検討すべきと考える。

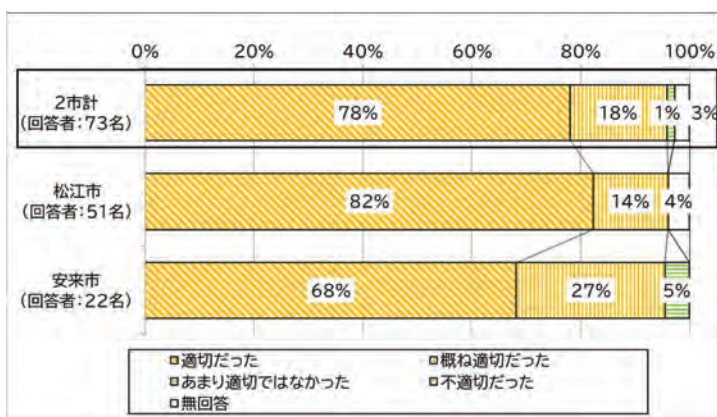
3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練

(4) UPZ住民の避難措置等訓練
(避難経由所開設・運営、避難所開設・運営)(1/3)自己評価
(参加住民)

- 今回の訓練に参加し、避難先市町村に到着後、避難経由所に立ち寄る必要があることが「理解できた」「十分理解できた」及び「概ね理解できた」の合計と回答された方は、**9割を超えた**(左図)。
- 避難所での受付の際、職員の対応は「適切だった」「適切だった」及び「概ね適切だった」の合計と回答された方は、**9割を超えた**(右図)。



避難退域時検査後の避難の流れに関する理解度



避難所における受付対応

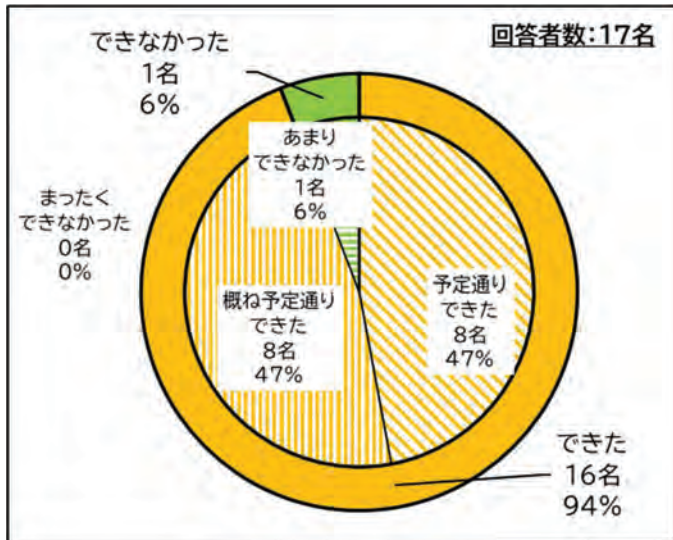
3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練

(4) UPZ住民の避難措置等訓練

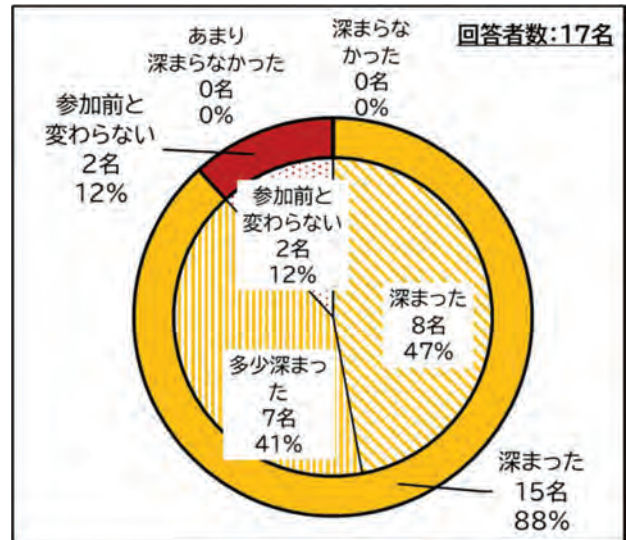
(避難経路所開設・運営、避難所開設・運営)(2/3)

自己評価
(参加職員)

- 訓練で実施した内容に関する自己評価について、「予定通りできた」「予定通りできた」及び「概ね予定通りできた」の合計)と回答された方は、**9割を超えた**(左図)。
- 今回の訓練に参加し、訓練で実施した内容に関する訓練後の習熟度方が習熟が「深まった」「深まった」及び「多少深まった」の合計)と回答された方は、**約9割**だった(右図)。



訓練で実施した内容に関する自己評価



訓練で実施した内容に関する訓練後の習熟度

Copyright © MRI Research Associates

28

3.3 11月9日(日)、29日(土)実施訓練

(4) UPZ住民の避難措置等訓練

(避難経路所開設・運営、避難所開設・運営)(3/3)

外部評価
(評価員)

【訓練の特徴】

- [対象:松江市・安来市]広域避難先市・町の協力を得て、一時集結所・避難経路所を活用し、バスによる避難・一時移転時の対応手順を確認することを主な狙いとした。なお、避難所については、広域避難先市の候補施設を1箇所ずつ活用した。
- [対象:出雲市]広域避難計画で定める一時集結所を活用し、バス等による集団での一時移転時の対応手順を確認することを主な狙いとした。
- [対象:雲南市]バスによる集団での一時移転時の対応手順を確認することを主な狙いとした。

【主な成果】

- 訓練の企画・実施を通じて、広域避難先市・町との連携強化を図ることができたほか、当該施設の特性等も把握できた。特に安来市では、現時点では避難所の候補になっていない施設において訓練を実施し、今後の計画類の充実につなげうる成果を得ることができた。
- 11/9の訓練当日(松江市以外)は悪天候により活動が制約される状況であったが、そのような環境下においても基本手順の確認を着実に実施することができた。

【良好事例】

- 11/9の訓練当日は悪天候であったが、受付からバスへの誘導まで適切に実施できていた。

【主な課題】

- 外国の方への対応として、主要な箇所への、外国語表記の掲示物の設置も検討すべきと考えられる。

Copyright © MRI Research Associates

29

3.4 11月20日(木)、26日(水)実施訓練

- (1) 社会福祉施設の避難措置等訓練(PAZ圏内)
- (2) 社会福祉施設の避難措置等訓練(UPZ圏内)

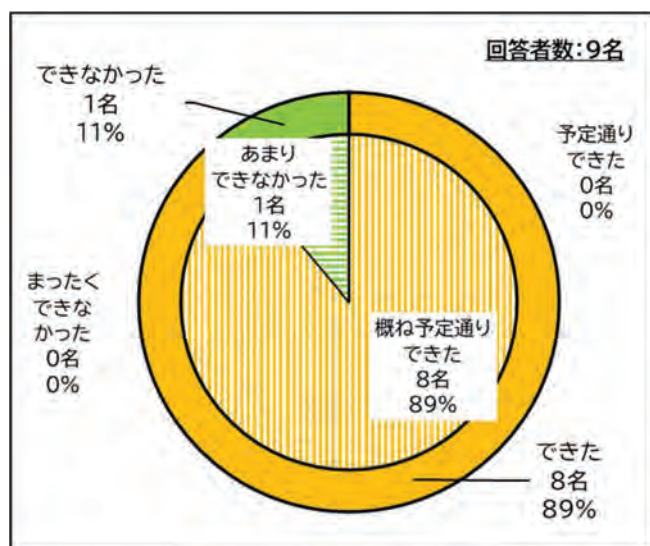
3.4 11月20日(木)、26日(水)実施訓練

(1) 社会福祉施設の避難措置等訓練(PAZ圏内)

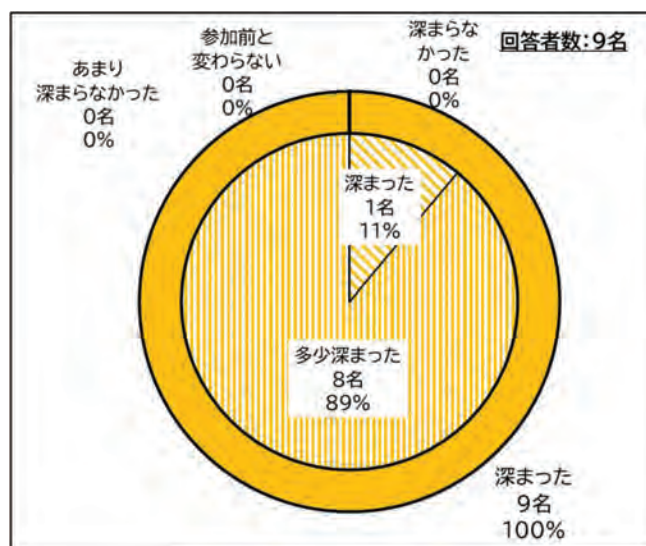
自己評価
(参加職員)

訓練で実施した内容について、

- 「概ね予定通りできた」と回答された方は、**9割弱**であった(左図)。
- **全員**が習熟が「深まった」(「深まった」及び「多少深まった」の合計)と回答された(右図)。



訓練で実施した内容に関する自己評価



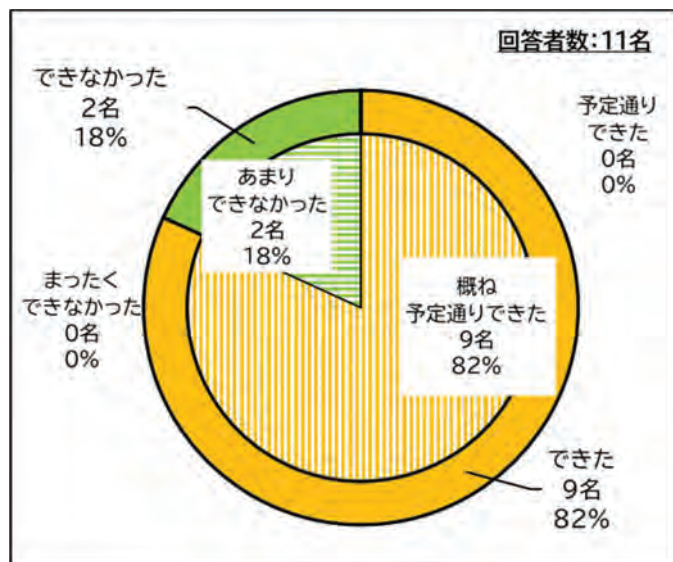
訓練で実施した内容に関する訓練後の習熟度

(2) 社会福祉施設の避難措置等訓練(UPZ圏内)

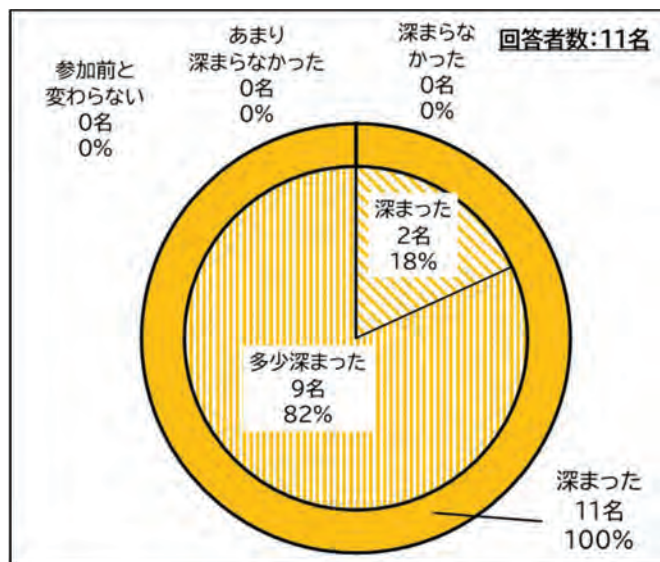
自己評価
(参加職員)

訓練で実施した内容について、

- 「概ね予定通りできた」と回答された方は、**8割を超えた**(左図)。
- **全員**が習熟が「深まった」(「深まった」及び「多少深まった」の合計)と回答された(右図)。



訓練で実施した内容に関する自己評価



訓練で実施した内容に関する訓練後の習熟度

3.5 12月16日(水)実施訓練

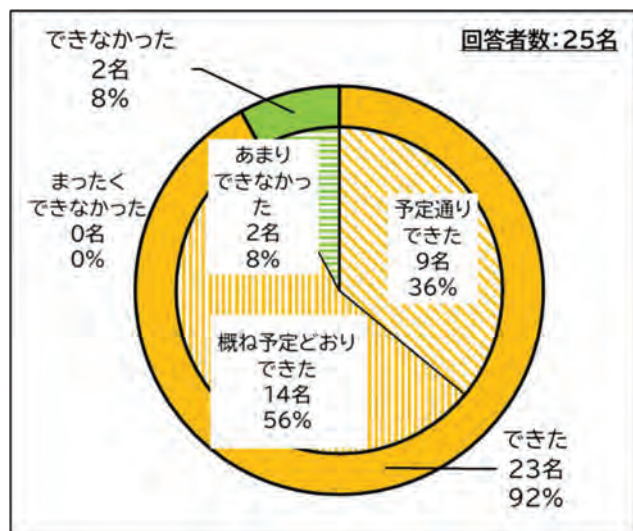
(1) 病院の避難措置等訓練

(1) 病院の避難措置等訓練

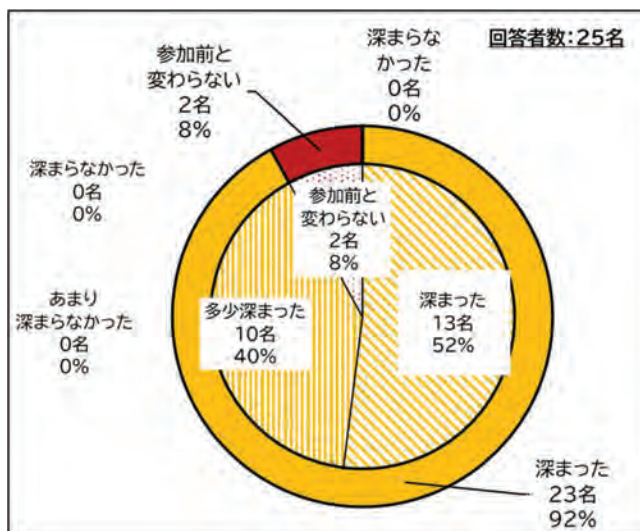
自己評価
(参加職員)

訓練で実施した内容について、

- 「予定通りできた」(「予定通りできた」及び「概ね予定通りできた」の合計)と回答された方は、**9割を超えた**(左図)。
- 習熟が「深まった」(「深まった」及び「多少深まった」の合計)と回答された方は、**9割を超えた**(右図)。



訓練で実施した内容に関する自己評価



訓練で実施した内容に関する訓練後の習熟度

3.6 12月24日(水)実施訓練

(1) 初動対応訓練

概要

	(台風が接近する予報⇒災害対策本部設置) ※訓練前
8:35	島根原発2号機で警戒事態該当事象(プラント)発生
8:40	初動対応訓練〔県庁、市役所ほか〕 ○発電所から通報受信 ○関係機関への連絡
	事象スキップ(約6時間経過)
9:45	島根原発2号機で施設敷地緊急事態該当事象発生
	○発電所から通報受信 ○関係機関への連絡
	事象スキップ(約2日経過)
13:00	島根原発2号機で全面緊急事態該当事象発生
14:00	原子力緊急事態宣言
	○合同対策協議会(TV会議) ○県災害対策本部会議
14:40	

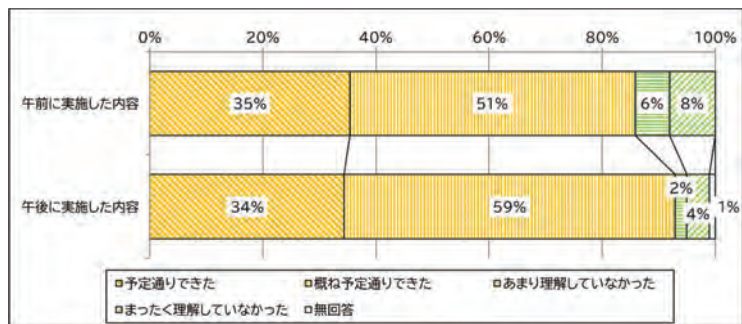
出所)令和7年度島根県原子力防災訓練の報道発表資料

(1) 初動対応訓練(1/3)

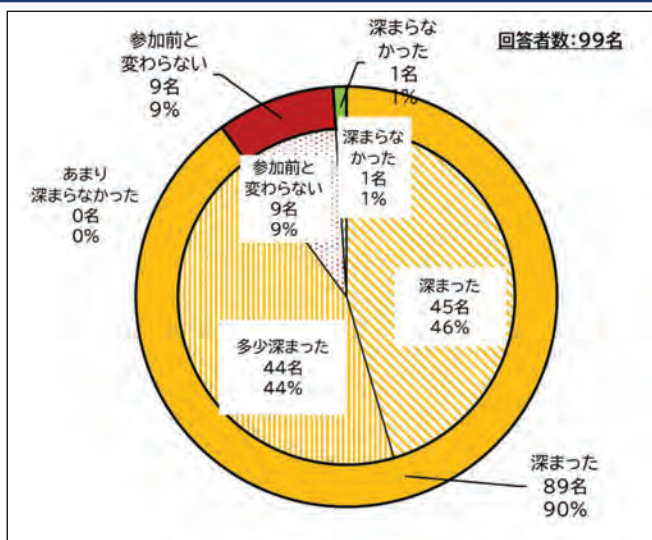
自己評価
(参加職員)

訓練で実施した内容について、

- 「予定通りできた」「予定通りできた」及び「概ね予定通りできた」の合計)と回答された方は、午前の訓練は**8割**、午後の訓練は**9割を超えた**。(左図)。
- 習熟が「深まった」「深まった」及び「多少深まった」の合計)と回答された方は、**9割**であった(右図)。



訓練で実施した内容に関する自己評価



訓練で実施した内容に関する訓練後の習熟度

(1) 初動対応訓練(2/3)

外部評価
(評価員)

【訓練の特徴】

- 訓練参加者の状況判断や判断結果に基づく対応手順の確認等を重点的に行うことを主な狙いとした。
 - 午前:島根原発2号機でプラントに起因する警戒事態(AL)発生後から施設敷地緊急事態(SE)までの初動対応手順を確認
 - 午後:島根原発2号機で全面緊急事態(GE)該当事象発生後(放射性物質放出前)の活動手順を確認 等

【主な成果】

- 午前の訓練では、台風が接近する予報により災害対策本部設置後の「自然災害」と「原子力事故に備えた対応」を同時に進める必要がある場合において訓練を実施することで、対応拠点・対応組織間の情報共有のみならず、それぞれの対応拠点・対応組織で決定すべき事項の明確化や決定内容に基づく活動手順などを確認できた。
- 午後の訓練では、全面緊急事態該当事象が発生(放射性物質放出前)した場合において、原子力災害に対応するそれぞれの拠点・組織がどのような防護措置を実施すべきかなどについて手順などを確認できた。
- また、TV会議システムを活用し、対策拠点間の情報共有手順を確認できた。
- 対策拠点ごとに本部会議等を開催し、これまでの対応状況の報告手順や事態の進展に応じた対処方針の決定手順などを確認できた。

【良好事例】

- 他機関から提供される情報について、クロノロによる情報共有に加えて、必要に個別説明を実施する等、適切に情報伝達をするための対応がとられていた。
- 住民への情報発信内容に関して、班員同士で根拠をチェックするなど、連携して運用がされていた。

(1) 初動対応訓練(3/3)

外部評価
(評価員)

【主な課題】

- ホワイトボードや地図等を活用し、情報は概ね可視化されていたが、依頼事項や指示事項への対応状況(動き)については、可視化されておらず、個別対応となっていたため、対応状況の問い合わせに対し、他の班員が回答できず折り返しする場面が見られた。また、クロノロジーのホワイトボードへの記載の仕方について、各Gで統一されておらず、「いつ」「どこから」「誰あて」への情報であるかなど、すべての情報の見える化ができていなかった。
 - ⇒《クロノロジー記載の統一》クロノロジーの作成担当者ごとで、整理手法が異なるように、基本的なクロノロジーの整理フォーマットを定めることが必要と考えられる。
 - ⇒《訓練の充実化》災害対応の長期化を見据え、部及び各班の対応方針や対応状況については、別途抜き出して見える化(TO DOリストの作成)を図るなど、情報共有・整理手順に関して、訓練を重ねて要員の能力を向上する必要が改善していくことが必要と考えられる。
- 概ねスムーズな本部運営がされていたが、トリガー事象の発生前の時間帯では、待ちの時間帯も多く見られた。
 - ⇒《対応手順の見直し、訓練の充実化》トリガー事象の発生前でも防護措置等の事前準備・対応が図ることができるよう対応手順の見直しを図ることが必要と考えられる。